研究・調査報告書

報告書番号	担当
３９２	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Effectiveness of a law to reduce alcohol-impaired driving in Japan

日本の飲酒運転規制法の効果

執筆者

Nagata T, Setoguchi S, Hemenway D, Perry MJ

掲載誌（番号又は発行年月日）

Inj Prev 14(1): 19-23, 2008

キーワード

交通事故、飲酒運転、飲酒運転規制法、死亡者数、負傷者数、日本

要　旨

目的：

日本で新たに施行された飲酒運転規制法の効果を推定する。

方法：

日本では2002年6月に血中アルコール濃度の基準値を下げ、罰則を強化することにより飲酒運転を減らすことを目的として、飲酒運転規制法を新たに可決した。警察による集計をもとに、交通事故死亡者および負傷者を時系列的に分析した。

結果：

走行距離10億キロあたりの全交通事故重症負傷者数、全交通事故死亡者数、飲酒運転に関連した負傷者、飲酒運転に関連した重症負傷者数、飲酒運転に関連した死亡者数の単純な比較で、2002年6月の新飲酒運転規制法の施行後に減少がみられた。本法の施行後、走行距離10億キロあたりの飲酒運転に関連した交通事故死亡は38%減少した。層別化し、ベースラインのトレンド、季節、自己相関を調整した回帰分析では、走行距離10億キロあたりの全交通事故負傷者数、全交通事故重傷者数、飲酒運転事故負傷者数、飲酒運転事故重症負傷者数、および飲酒運転死亡数は、新法施行後有意に減少した。

結論：

日本において、新たな飲酒運転規制法の施行後直ちに、大きな公衆衛生上の利益が明らかとなった。